

脳卒中急性期医療に関する病院スタッフに対する研修会について

常味 良一¹⁾ 見田野 直子¹⁾ 大澤 竜¹⁾ 高橋 陽子¹⁾ 谷崎 義生²⁾
美原 盤³⁾

- 1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部
- 2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 救急部
- 3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[はじめに]脳卒中急性期医療においては多職種が共通認識を持ってチーム医療を行うことが求められる。当院は脳・神経疾患の専門病院として2009年よりImmediate Stroke Life Support (ISLS)群馬コースの立ち上げに参加し、医療チームの人材育成に取り組んできた。一次脳卒中センターの認定を受けた当院は、より専門的で質の高い医療を提供することが期待され、スタッフ教育は極めて重要な課題である。そこで脳卒中急性期医療に関するスタッフ研修について報告する。

[取り組み]全職員を対象としたBasic Life Support (BLS)コースを毎月1回、16時から16時30分、講師は看護師が勤め、実施した。2019年は15回実施、延べ94名が受講した。また看護師を対象としImmediate Cardiac Life Support (ICLS)コースを年2回実施(8時30分から17時45分)、2019年は12名が受講した。さらに救急外来、および脳卒中ケアユニットの担当看護師12名を対象に、ISLSコースの資料を基にした研修会を、隔週金曜日、17時40分から18時30分、救急部医師を講師として開催した。第1回目は意識障害、第2回目は呼吸・循環管理、第3回目はELVO (Emergent Large Vessel Occlusion)スクリーンをテーマとし、座学とシミュレーターを利用した実習などを行った。

[考察]研修の回数、日時、時間などを工夫することにより多くの参加者が期待される。このような研修を通じて各職種が救急医療への関心と共通認識を持つことが、自分たちが救急医療を担っているのだという意識の醸成につながると感じられる。救急現場では迅速な対応が求められ、患者管理に必要な知識やスキルの向上のみならず、医師、救急隊員、看護師らが共通言語を持ち対応していくことが質の高い救急医療につながると思われる。